

科目名	IT 全般統制及び情報処理統制の実務演習								
分類コード	経営 406	学年	J2	時期	後期	必修	—	単位	3
講義形態	ライブ講義								
<b>受講の前提及び事前準備</b> <p>・経営 402「企業における IT 環境と IT に関する保証業務」を受講完了し、フローチャートに関する知識について習得した上で、経営 404「情報処理統制」及び、経営 405「IT 全般統制」の受講完了していることが前提となる。</p> <p>以下を通読しておくことが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監基報 315 重要な虚偽表示リスクの識別と評価</li> <li>・監基報 330 評価したリスクに対応する監査人の手続</li> <li>・IT 委員会研究報告第 57 号「IT の利用の理解並びに IT の利用から生じるリスクの識別及び対応に関する監査人の手続に係る Q&amp;A」</li> </ul>									
<b>講義内容（指導目的）</b> <p>IT 全般統制、及び情報処理統制に関するケーススタディによる演習を行い、IT の利用から生じるリスクの識別と評価の理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営 405「IT 全般統制」で学習した事項を踏まえて、監査現場を想定したケーススタディに基づき、IT の利用から生じるリスクの影響を受ける IT アプリケーションの IT 全般統制の理解、統制活動の識別、及び運用評価手続ができるようにする。</li> <li>2. 不備がある場合の影響を理解し、監査上の対応ができるようにする。</li> <li>3. 経営 404「情報処理統制」で学習した事項を踏まえて、監査現場を想定したケーススタディに基づき、IT の利用から生じるリスクの影響を受ける IT アプリケーションの情報処理統制の理解、統制活動の識別、及び運用評価手続ができるようにする。</li> </ol>									
<b>キーワード</b> <p>IT 全般統制：IT 環境、評価範囲の決定、不備の評価、残余期間、クラウド  情報処理統制：IT の利用から生じるリスクの影響を受ける IT アプリケーション、システム名称、関連帳票の名称、マスタ、データ転送の方法</p>									
<b>到達目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シナリオから全般統制の整備・運用を評価できる。</li> <li>2. シナリオからフローチャートを作成することができる。</li> <li>3. フローチャートから重要な虚偽表示リスクに対応する情報処理統制を識別し、リスク対応手続を立案することができる。</li> <li>4. システムが生成するレポートの検証について、具体的な監査手続を立案することができる。</li> </ol>									
<b>参考文献</b> <p>特になし</p>									